

注意一秒責任一生!?

羽黒アキ

平成三二年三月二六日

あらすじ

財布を落としたと思ったら即座に少年に拾われてしまった。返してもらおうとしても「お札」を要求されて……。

登場人物

男 受け。サラリーマン。うっかりが原因で少年に弱みを握られ……
少年 攻め。男の弱みを握り、要求したものは……

利用規定

ニコ生、ツイキャス、声劇会議で演じられる場合は報告不要です。その他の場合は一方ください。

録音・録画される場合は、完成品を頂けると非常に励みになるばかりではなく、場合によっては次作へのインスピレーションとなるため非常に喜びます。また、——居ないとは思いますが——

有償案件、営利・宣伝活動の一環に用いられる場合は必ず事前にご相談ください。

作者連絡先

Skype: gioseffo

Discord: ハキ#5530

LINE: ex.parrrot

Twitter: @AKI_HAGURO

メール: aki.haguro@gmail.com

だいたい掲載順に気づきやすいです。

1 路上

夕方、男が帰宅の途についている。

男 (内ポケットをまさぐり) えーっと、あれ、どこやったっけ……

男、内ポケットから財布を落とす。

男 あっ……。

少年、即座に財布を拾い、男に差し出す。

少年 オニーサン。財布落としたよ。

男 ああ、ありがとうね。

男が受け取ろうとしたところ、財布を引っ込める少年

男 えっ？

少年 お礼。

男 あ？

少年 お礼一割。

男 あ、ああ。

少年 (財布を開き) え、お金入ってないの？

男 ああ、買い物はカードで済ませるからな。残念だったな。じゃあ、返してくれるかな。

少年 だーめ。

男 ああ!!

少年 お金が無いなら、身体で払ってよ。

男 身体でだあ？

少年 うん。それくらいできるでしょ。

男 どうしろってんだよ。

少年 とりあえず、オニーサン今帰り？家に連れてってよ。

男 茶と菓子でも出せてか？

少年 いいから。

男 わーったよ。連れてきやいいんだろ、連れてきや。菓子食ったら帰れよな。

2 男の自宅

男 (茶と菓子を出す) ほらよ、これでいいか。

少年 うん、ありがと。でもね、俺が食べたいのは、もっと違うものなんだよね。

男 ワガママ言うな。財布握っついて、買いうも無いじゃないか。

少年 ううん、売ってないものなんだ。

男 売ってないものだあ？

少年 (男の耳元で) オニーサンが食べたい。

男 (赤面しつつ) はあ!?

少年 だから、オニーサンが食べたいの、俺。

男 どういう意味……

少年 (男の耳に舌を這わせる)

男 なっ……

少年 (二通り男の耳に舌を這わせた後、軟骨を甘噛する)

男 やめ……

少年 こっちは元気になってるみたいだけど？

男 !?

少年 食べごろかなー。

男 ちよっ、こら……

少年 ちよっとオニーサン。脱がしにくいからぐったりしないで。

男 やめ……

少年 やーっと腰浮かしてくれた。本当はシたかった？

男 違っ(遮られる)

少年 (遮って) いただきまーす。

男 あっ……

(アドリブ) フェラをする少年。こらえようとするが、声が漏れる男。

男 やめ……出る……

少年 (唾えながら) いいよ、口に出して。

男 (イッて) あうっ……!!

少年 (精液を飲み下す)

濃くて苦い。美味しいよ、オニーサンの精液。

男 (言葉にならない声)

少年 俺みたいな子供におちんちんペロペロされて、気持ちよかったんだ。オニーサン、変態だね。

男 ……望んだのはどっちだよ。

少年 うん、俺だね。でも、オニーサンも気持ちよかったんでしょ？へ・ン・タ・イ。

男 ……満足かよ。

少年 まさか。オニーサンだけを気持ちよくして終わりなわけ無いじゃん。

男 (指を挿れられ)んあっ……

少年 あれー？抵抗なく入っちゃった。やーらしいね、オニーサン。

男 言う……な……

少年 やらしい人にやらしいって言って何がいけないの？ホントにやらしいよね。

じゃあ準備の方は良いみたいだから、挿れるね。

男 (挿れられて)あぐっ……

少年 あははっ。オニーサンの身体は期待してたのかな。すんなり入ったのに凄い吸い付いてくる。

ねえ、気持ちいい？子供におちんちん挿れられて気持ちいい？

男 あっ……あうっ……

少年 ねえ、気持ちいいなら気持ちいいって言ってよ

男 誰が……言う……か……

少年 えー、言ってくれないとつまんないよ。うーん、ここかな？

男 あんっ……

少年 ほら、言つてよ、正直に。(良いところを擦りながら)気持ちいいって。

男 あっ……や……

少年 ほーらー

男 き、気持ち……いい……よ。これで……満足……かよ……。

少年 よく言えました。

男 あの……なっ……

少年 言えたから、ご褒美あげるね。ここだよ、気持ちいいの。いっぱいしてあげる。イッていいよ。

男 あ、ああ……

少年 俺も、オニーサンの中に出すからね。

男 好きに……しろよ……

少年 (イク)

男 (中に出されたのに反応してイク)

事後、少年が菓子と冷めた茶に手を付けている。

男 これで……満足かよ。

少年 うーん、今日のところは、かな。財布そこに置いてあるから。

男 今日のところは？

少年 またオニーサンのこと食べたくなったら食べに来るよ。

男 はぁ？

少年 オニーサンだって、食べられるの好きでしょ。

男 負けたよ。いつでも来い。

終劇

あとがき

年下攻めを書きたかったんだ!! シヨタ美味しい!!

「演じてみた」報告は不要ですが、頂けると励みになります。また、演じた際の録音などを頂けると、飛び上がって喜ぶばかりか、それ自体がアイデアの源泉になったりもします。

最後になりましたが、この本に対する誤字脱字、読みにくい、つまらない等のご指摘は、左記にお願いいたします。

Skype: gioseffo

Discord: ノギ#5530

LINE: ex.parrrot

Twitter: @Aki_HAGURO

メール: aki.haguro@gmail.com